

平成13年度 畑作関係除草剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

平成13年度畑作関係除草剤試験成績中央検討会は、平成13年12月4日(火)、植調会館3階会議室において開催された。

本年度供試された畑作関係除草剤は、作用性試験8剤、適用性試験16剤であった。

このうち適用性試験については、慎重に試験成

績を検討し、実用化についての判定を行った。

なお、今回の検討会より、各地域判定の使用基準が同一である場合、適用地域を記載しないこととした。

その結果は、次表のとおりである。

平成13年度 畑作関係除草剤試験 中央判定および使用基準一覧

薬剤名	作物名	中央判定	使用基準							継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 <水量>/a	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
2. AVH-001 乳 エトフメート 10% フェンメチファム 8.2% デスメチファム 6.4%	てんさい (移植)	継								・効果、薬害の再確認
3. BAS-656 乳 ジメナミド-P 720g/L	大豆	実・継	一年生イネ科雑草	土壌	播種後 雑草発生前	7.5~12mL <10L>	全土壌 (砂土を除く)	寒地		・暖地における 薬害要因の検討
			一年生雑草 (アカ科、アザミ科、 タデ科を除く)					寒冷地以西		
9. HSW-992 水和 イソキサフルトール 3.7% ジメナミド-P 18%	とうもろこし 飼料用 とうもろこし	実・継	一年生雑草全般	土壌	播種後 雑草発生前	20~25g <10L>	全土壌 (砂土を除く)	寒地	1) タデ類に効果が劣る 場合がある。	・地域拡大
10. KUH-901 乳 ベンチオカブ 50% リニクロン 7.5% ベンディメタリン 5%	落花生	継								・薬量と効果の再確認

注) _____ は拡大された部分、_____ は拡大部分が含まれることを示す

薬剤名の _____ は新たに使用基準が作成された薬剤である

薬 剤 名	作物名	中央 判定	使 用 基 準							継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 <水量>/a	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
11. M&B9057 液 アシュラム 37%	さとう きび (春植)	実	一年生雑 草、多年 生雑草	茎葉	雑草生育初 期	80～100mL <15～20L>	全土壌		1) 遅効性なので散布時 期を逸しない。 2) ヒコ科、アカザ 科、カタリガ サ科、ザクロリ、ツユクサ、ギ ョウギシバ に効果が劣 る。	
	さとう きび (夏植)	実	一年生雑 草、多年 生雑草	茎葉	雑草生育初 期	80～100mL <15～20L>	全土壌		1) 遅効性なので散布時 期を逸しない。 2) ヒコ科、アカザ 科、カタリガ サ科、ザクロリ、ツユクサ、ギ ョウギシバ に効果が劣 る。	
	さとう きび (株出)	実	一年生雑 草、多年 生雑草	茎葉	雑草生育初 期	80～100mL <15～20L>	全土壌		1) 遅効性なので散布時 期を逸しない。 2) ヒコ科、アカザ 科、カタリガ サ科、ザクロリ、ツユクサ、ギ ョウギシバ に効果が劣 る。	
12. MON-96A 液 グリホサートアンモニウム 塩 41%	大豆	実・継	一年生雑 草全般	茎葉	耕起10日以 前 雑草生 育期 (草丈 30cm以下)	25～50mL <2.5～ 10L>	全土壌	寒冷地以 西	1) 少水量散布 (2.5～5 L) の場合は専用ノズ ルを使用する。	
					播種後出芽 前 雑草生 育期 (草丈 30cm以下)	25～50mL <5L>		寒冷地 温暖地	1) 大豆の発芽開始後 は、薬剤が直接触れ ると葉害が発生する ことがあるので注意 する。 2) 専用ノズルを使用す る。	・低薬量での効 果の確認 ・寒冷地、温暖 地西部、暖地 における効果 の確認
	大豆 (グリーホ サート耐 性)	実・継	一年生雑 草全般	茎葉	大豆2～5葉 期 (雑草生 育期)	25mL <5L>	全土壌	寒冷地以 西	1) 雑草量が多いときや 雑草の生育が早いと きは、早めに処理を する。	・処理時期、薬 量と効果の確 認
13. NBA-961 顆粒水和 剤ミトロン 70%	てんさ い (移植)	実・継	一年生広 葉雑草	茎葉	活着後 雑 草発生始～ 揃期	40～60g <5～10L>	全土壌 (砂土を 除く)		1) 非イオン系展着剤を 加用する。	・散布水量5L/a での効果、葉 害の確認
14. NH-611 乳 ビラフルフェニル 0.4%	ばれい しょ	継								・効果、葉害の 再確認
15. NH-9301 707777 ビラフルフェニル 2%	こんに やく	継								・効果、葉害の 再確認

薬 剤 名	作物名	中央 判定	使 用 基 準							継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 <水量>/a	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
16. NP-61 乳 テブ ラロキシム 10%	てんさい	実・継 (従来 通り)	一年生イ ネ科雑草	茎葉	イネ科雑草 3～5葉期	7.5～10mL <10L>	全土壌		1) イネ科雑草優占圃場 で使用する。 2) 体系処理：広葉雑草 対象の既登録土壌処 理剤を使用する。	・多年生イネ科 雑草に対する 効果の再確認
18. S-604 乳 クレジム 23%	大豆	実	一年生イ ネ科雑草	茎葉	イネ科雑草 3～5葉期	3.5～5mL <10L>	全土壌		1) イネ科雑草優占圃場 で使用する。 2) 体系処理：広葉雑草 対象の既登録土壌処 理剤を使用する。	
19. SB-508 乳 ジメナミド 76%	とうも ろこし 飼料用 とうも ろこし	実	一年生イ ネ科雑草	土壌	播種後 雑草発生前 雑草発生前 ～発生始期 (播種後～ とうもろこ し2葉期ま で)	10～15mL <10L>	全土壌 (砂土を 除く)	寒地 寒冷地以 西	1) 処理後に著しい低温 多湿が続く条件下で は、生育が抑制され ることがある。	
20. WOC-01 液 グリサートイソプロ ピルアミン塩 41%	大豆	実・継	一年生雑 草全般	茎葉	耕起または 播種7日以 前 雑草生 育期(草丈 30cm以下)	25～50mL <2.5～ 10L>	全土壌	寒冷地以 西	1) 少水量散布(2.5～5 L)の場合は専用ノズ ルを使用する。	・薬量と効果の 確認 ・寒冷地、温暖 地西部、暖地 における効果 の確認
					播種後出芽 前 雑草生 育期(草丈 30cm以下)	25～50mL <10L>		寒冷地 温暖地	1) 大豆の発芽開始後 は、薬剤が直接触れ ると薬害が発生する ことがあるので注意 する。	
21. トリフルリン 粒 トリフルリン 2.5%	かんし よ	実・継 (従来 通り)	一年生雑 草(アブミ 科、カサ 科、カタ グサ科、ユ メカサ科を 除く)	土壌 (畦間 処理)	植付直後	300～400g	全土壌			・植付前、マル チ前処理での 薬量と効果の 検討
22. YF-65L 液 ジクワットプロミ ド 7% パラコートクロリド 5%	大豆	継								・雑草の大きさ 、草量を考え た処理方法の 検討
23. ZK-122 液 グリサートカリウム塩 616g/L	大豆	継								・効果、薬害の 再確認(特に 低薬量での効 果)